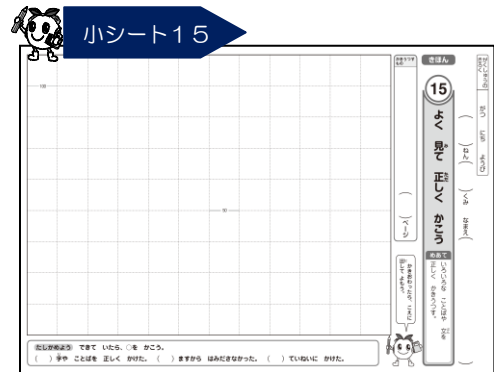


## 視写を取り入れて文章の構成をつかませる場合の活用例

「どう やって みを まもるのかな」(東京書籍『あたらしいこくご 一上』)

### 1 本事例でシートを活用する趣旨

「どうやって みを まもるのかな」は、入学後初めて出会う説明的な文章である。複数の動物の身の守り方について同じような文章構成で述べられているため、説明的な文章の基本的な構成を学習するのに適した教材である。しかし、この教材を扱う1年生の6月中旬は、平仮名を完全に習得していない児童もいる。そこで、【小シート15】を活用して教材文を視写(なぞり書き)する学習を繰り返すことで文字や文字の使い方に慣れさせるようにした。そのう



えで、文章の内容のまとまりをつかみ、書かれている事柄を理解する力を高めたいと考えた。

本単元の後半では、他の動物の身の守り方について説明する学習を行い、この教材で学んだ文章の構成を意識して話したり書いたりすることにつながるよう工夫した。

### 2 単元について

#### (1) 育成を目指す言語能力

##### 一次 読むこと

- ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。

【第1学年及び第2学年 C読むこと(1)ア】

- ・時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。

【第1学年及び第2学年 C読むこと(1)イ】

- ・平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。【第1学年及び第2学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)ウ(ア)】

##### 二次 書くこと

- ・自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。

【第1学年及び第2学年 B書くこと(1)イ】

- ・長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文中で正しく使うこと。

【第1学年及び第2学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(エ)】

#### (2) 具体的な言語活動

##### 一次 読むこと

- ・事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。

【第1学年及び第2学年 C読むこと(2)ウ】

##### 二次 書くこと

- ・身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。

【第1学年及び第2学年 B書くこと(2)ウ】

### (3) 単元の評価規準

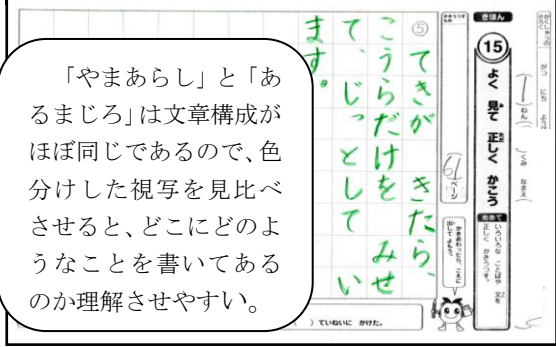
	国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
一 次	動物の身の守り方に興味をもち、事柄の順序に気を付けながら、読もうとしている。		語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 C (1) ア 事柄の順序や構成上の順序などに気を付けながら、文章を読んでいる。 C (1) イ	平仮名を正しく読んでいる。(1) ウ(ア) 平仮名を正しく書いている。(1) ウ(ア)
二 次	動物の身の守り方について、事柄の順序や簡単な構成を考えて文章を書こうとしている。	選んだ動物の身の守り方が明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。		助詞の「は」、「へ」、「を」を文の中で正しく使っている。(1) イ(エ)

### (4) 指導の実際 [全7時間：一次5時間、二次2時間]

時	単元の流れ	指導のポイント
一 次	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">教材文を読み、内容の大体をとらえる。</div> 1) 題名を読み、「み」とは何なのか考えることでどのような話なのか想像し、書かれていることを予想する。 2) 教材文をいろいろな方法で音読する。 3) 教材文を読み、思ったことを発表する。 4) それぞれの動物の身の守り方はどこに書いてあるのか、挿絵（拡大して掲示する）とつなぎながらとらえる。 5) 学習の最後には教科書 P. 65 の挿絵にある動物の身の守り方を説明的な文章に書くことを知り学習の見通しをもつ。	○題名を考えさせることにより、読むことへの関心を高め、題と本文の内容は関係していることに気付かせる。  ○様々な方法で繰り返し音読させることでよりよい音読ができるようにさせるとともに、文章構成についても意識できるようにさせる。 ○文章のどこに何を書いているのか大まかにとらえさせることで、文章構成について意識できるようにさせる。  ○見通しをもたせることで、学習への意欲を高める。
3 〜 5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">動物の身の守り方を読む。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">3～5時間目の各時間の主な展開</div> 1) 学習範囲を音読する。 2) 学習範囲を視写（なぞり書き）する。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; font-weight: bold;">ハシート15</div> </div> 3) その動物の身の守り方と説明の順序を確認する。 <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-left: 20px;"> <span>○動物の名前</span> <span>○体の特徴</span> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-left: 20px;"> <span>○質問</span> <span>○答え（身の守り方）</span> </div>	○やまあらし（3時間目）、あるまじろ（4時間目）、すかんく（5時間目）のそれぞれをこのような展開で扱う。  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;">             毎時間、視写を繰り返すことで、「質問の部分・答えの部分」など説明的な文章の基本的な構成をつかませる。              視写を通して書かれている内容を確認することは、文字を読み慣れていない1年生にとって学びやすい。そのため、この学習方法を繰り返すことで、文字を読むことに慣れ、自立的な読みの力にもつながることが期待できる。併せて、平仮名、文章を書くことにも慣れさせることができる。           </div>

**【小シート15】の活用（4時間目）**

あるまじろの身の守り方を読む。



「やまあらし」と「あるまじろ」は文章構成がほぼ同じであるので、色分けした視写を見比べさせると、どこにどのようなことを書いてあるのか理解させやすい。

**【小シート15】の活用（5時間目）**

すかんくの身の守り方を読む。



**【小シート15】の使い方の工夫①**

この時期の1年生にとって、教科書を見ながら、本文を正しく視写する学習は難しいので、以下のような工夫をする。

- 学習する範囲の文章を【小シート15】にあらかじめ教師が書いて印刷しておく。
- 教師が書いた文字からはみ出さないよう、丁寧になぞらせる。
- 文章を色分けしながらなぞることで、書かれている内容にはまとまりがあることに気付かせる。
  - ・動物の名前……鉛筆
  - ・体の特徴……赤色
  - ・質問……青色
  - ・答え（身の守り方）……緑色

- 文章中の言葉と挿絵とを対応させ、分かったことや感じたことなどを語らせたり、身体を使って表現させたりすることを通して、確かな内容理解につなげていく。
- 3回目の視写は、教師も子どもと一緒に色分けしながら黒板に文章を書いていく。ことばのまとまりごとに教師が読むとともに、「先生と同じ速さで書いていくのですよ。」と指示することで、ことばのまとまりや書くスピードを意識させるようにする。

内容のまとまりごとに色分けして書くことを繰り返すことによって、どのようなことが書いてあるか簡単に自分で記入できるようになった。

- ①……なまえ
- ②……からだ
- ③……しつもん
- ④～⑥……こたえ

ほかの動物の身の守り方を説明する。

- 6 1) 動物の体の特徴や身の守り方を思い出し  
ながら、一次で視写した文章を音読する。



小シート15

- 2) 一次で視写した文章を見ながら、動物の  
身の守り方について説明する事柄や述べ  
方を確かめる。
- 3) 教科書 P. 65 の「ハリネズミ」「エリマキ  
トカゲ」「ウサギ」の体の特徴や身の守り  
方を話し合う。

【小シート15】の使い方の工夫②

子どもが視写した文章を、カラーの拡大  
コピー機やスキャナー、デジタルカメラな  
どを活用し、拡大して提示すると、視覚的  
に内容のまとまりをとらえやすくなる。

色分けした部分が、「なまえ、からだ、し  
つもん、こたえ」であることを確認しなが  
ら音読する。

- それぞれの動物について、「動物の絵」  
「身を守っていることがわかる絵」の  
2種類の挿絵を用意し、身の守り方を  
考えさせ、説明するために必要な事柄  
を確認する。

ほかの動物の身の守り方を説明する文章を書く。

- 1) 一次で視写した文章を音読する。  
2) 自分が選んだ動物の身の守り方にあては  
めて説明する練習をする。  
3) 【小シート15】を使って、動物の身の  
守り方を説明する文章を各自で書く。



小シート15



- 4) 「ハリネズミ」「エリマキトカゲ」「ウサ  
ギ」の身の守り方の発表会を行う。

まとまりごとに何が書かれているか一  
次で読み取ってきたことが生かされ、「動  
物の名前、体の特徴、質問、答え（身の守  
り方）」を文型に沿って、無理なく話すこ  
とができた。

【小シート15】の使い方の工夫③

一次の学習で、視写を繰り返してきたの  
で、二次の説明的な文章を書く学習におい  
ても同じ形式の原稿用紙を使うと抵抗感な  
く説明的な文章を書くことができる。

※このシートを作文の原稿用紙としても  
使うことができる。

- 発表会の後、子どもの書いた説明的な  
文章を教室に掲示し、読み合えるよう  
にする。
- 『どうやってみをまもるのかな』や『ど  
うやってねるのかな』（藪内正幸、福  
音館書店）などの絵本を紹介し、読書  
への意欲付けをする。